

派遣先所属 福島県観光交流局県産品振興戦略課
氏 名 御嶽 周平 (みたけ しゅうへい)
派遣期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県産品振興戦略課では主に福島県産品の国内外における販路拡大やブランドイメージ向上に関する業務を行っています。私の担当業務は海外への輸出を促進するための業務や、国際総合見本市への出展及び福島県貿易促進協議会の運営事務等です。福島県職員と一緒に業務に従事しています。具体的には商談、海外で行われるプロモーション実施に関する事務処理、現地での販売促進活動等を行うものです。

福島県の産品は、震災後4年以上が経過した今も、根強い風評を受けています。特に海外においては、情報の不足もあり、いまだに福島県の復興の状況等が正確に伝わっていないと感じます。そのため、輸入規制や風評など、県内の事業者や生産者にとってはいまだに厳しい状態が続いています。

そのような状況下において、比較的輸入規制の緩やかな東南アジアに着目して輸出拡大を推進しています。福島県一体となった努力もあり、震災後皆無となった輸出量は徐々にではありますが、増加しつつあり、品目や輸出先も少しずつ開拓されています。

また、現地の関係者や消費者に向けて福島県の正しい情報の発信や有望なバイヤーとのマッチングを支援するため、国際総合見本市へ出展する県内事業者をサポートしています。



海外への情報発信
(シンガポール)



現地店舗でのプロモーション
(インドネシア)

担当業務では、福島県産品の輸出促進は重要な取組であり、福島県民の方の生活基盤の回復や風評払拭のため引き続き努力したいと思います。



国際総合見本市の様子



元気にしています

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

福島県への派遣は2年目になりますが、日常の生活は落ち着いている印象があります。一方で、まだ多くの避難者がいらっしゃることや、原発の問題の解決にはまだ多くの時間を要する点など、復興は道半ばという感じがします。先日、常磐道を通ってみたのですが、まだ多くの場所で除染作業を行っていました。勤務先である福島県庁がある福島市では、現在では目に見えるような震災の被害は見られません。

県内の市町村に足を運びますが、まだ全て回りきれていません。福島県はとても広く、その多様な文化が根付いている地域だと改めて感じます。福島県には、美味しい旬の果物や、有名な喜多方ラーメン、全国新酒鑑評会金賞受賞数3年連続日本一の日本酒など食の楽しみも豊富で、桜、紅葉、花、歴史、温泉、スキー場、など四季折々の魅力がいっぱいあります。

皆様にも福島県をぜひ訪れてもらって、その魅力を体験してほしいと思います。



相馬野馬追の行事の1つ（浜通り地方）



大きい赤べこ（奥会津地方）

派遣先所属 福島県観光交流局県産品振興戦略課
氏 名 石井 淳 (いしい あつし)
派遣期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県県産品振興戦略課では主に食品、工芸品等の県産品の付加価値向上や販路拡大、ブランド化の推進に関する業務を行っています。また、東日本大震災と原子力発電所事故の発生以降、未だ根強く残る県産品に対する風評の払拭、販路の回復・拡大に関する業務にも取り組んでおります。

私の担当業務は国内における県産品の販路の回復・拡大に関する業務や、復興支援イベントにおける県産品の販売やPRへの対応、利用額の一部が県産品の振興や風評払拭に使われる「Fukurum (フクラム) カード」推進協議会に関する業務等です。

具体的には、県外での福島県物産展の開催、大型食品展示会における福島県ブースの出展、県内事業者の商品開発や販路開拓に対する支援等を行っています。また、県内外で開催される復興支援イベントに出展する事業者の公募や、「Fukurum カード」のPR活動及び支援金を活用した事業運営等にも取り組んでいます。

福島県の産品を取り巻く状況は、震災や原発事故により落ち込んだ農産物等の市場価格が戻らず、また、事業者が一度失った取引先への販路を回復できずにいる等、依然として厳しい状況に置かれています。物産展の来場者や展示会で県ブースを訪れるバイヤーの反応は概ね好意的ですが、一方で日頃の業務を通じ、福島県の産品に対して不安を持っている消費者もまだまだいることを感じます。

私は、県産品の復興のためには、福島県の復興に対する「応援の気持ち」をお持ちいただいている人々に対する継続した支援の呼びかけと、県産品に不安を感じている人たちへの正しい情報発信の二つを、今後とも長期間継続していく必要があると考えます。



県外での物産展の開催



物産展で桃を販売

担当業務を通じ、県内事業者の販路回復の支援等を実施することで、地場産業の振興による福島県民の方の復興支援のため引き続き努力したいと思います。



展示会での県産酒、県産米PR



Fukurum カード会員募集活動

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

福島に来て2年目になりますが、私が住んでいる福島市内には目に見える震災の被害はほとんど残っていません。一方で、福島県は他の被災県と異なり、原発事故による影響という目に見えない被害がまだ残っています。農家や食品加工業者の方々は、依然として厳しい状況に置かれており、今後とも長期的な支援が必要だと思います。

休日は県内の観光地に出かけたり、職場の同僚とスポーツなどのレクリエーションをして過ごしています。福島の方々はとても温かく、派遣中も特に寂しさを感じることはありません。

福島県派遣を通じて、福島と埼玉がとても近い距離にあること、震災以前から、多くの福島出身の方々が埼玉にお住まいであること等、両県の関係性が自分なりに体感できたことがとても印象的でした。福島県と埼玉県は新幹線を利用すれば2時間もかからずに移動できます。皆さまも是非、福島県を訪れ、実際にふくしまを観て、食べて、現状をご自身で体験してみてください。



職場の同僚と草野球



起き上がり小法師と白河ダルマ